



社会文化 プロジェクト 「MangaQ'ba」

創立:
2011年

代表者:
ファン・カルロス・
ヒル・パロミノ

活動内容:
日本文化の促進を通し人
間的な価値を広める

ファン・カルロス・ヒル・パロミノさんへのインタビュー

カマグエイ、500年以上前に「サンタ・マリア・デル・プエルト・デル・プリンシペ」として設立されたこの街は、首都ハバナと第2の都市サンティアゴ・デ・クーバの間に位置します。2008年にUNESCOの世界遺産に登録されたものの、首都から500km以上離れており、日本人訪問者が多いとは決して言えませんが、驚くべきことに、ここでは、日本の伝統文化とポップカルチャーが存在感を見せています。なぜなのでしょう。

プロジェクト「MangaQ'ba」とその祭典「HANAMI」

日本の桜に似たホワイトオックスの花が咲く4月に、この街で「HANAMI」という祭典が例年開催されています。日本では桜の花の下で春の訪れを感じる行事ですが、ここでは、剣道や合気道といった演武から、ビデオゲーム披露会や日本の歌のカラオケ大会などが催され、カマグエイ県内外の若者の間に、日本を感じる特別なイベントとして徐々に浸透しています。2020年及び2021年は新型コロナウイルスの影響で開催は断念されましたが、感染者数も落ち着い



た2022年には、近隣だけでなく遠方からも数千人の若者が集まりました。このイベントを企画・運営するのがプロジェクト「MangaQ'ba（マンガクバ）」です。現在代表を務めるファン・カルロス・ヒル・パロミノさん、副代表ジョアン・マヌエル・ペレス・ガルシアさん、運営委員カルメン・ロサ・オラサバルさん、そしていまは活動から退きましたが、素晴らしい漫画の描き手でもあるアディニス・ミレット・ラモスさんによって創立されました。



祭典「HANAMI」2022



ファンさんとコスプレヤー達



剣道の演武

ファンさんは、映像アーティストである上に、複数の社会文化プロジェクトに携わっており、また国際ビデオアート・フェスティバル（FIVAC）のクリエイティブディレクター、ニューメディア発展研究展示センター（CEDINM）の技術副ディレクターも務めています。カマグエイ県にある複数の道場のひとつで柔術を嗜んでいた父親の影響から、

幼い頃から日本文化に親しんでいました。おそらくこれは、フアンさんが後に剣道を習い始めたことにも関係しているのでしょう。11歳の時にはすでにチャンバラ映画や日本のアニメが生活の一部になっていました。漫画やアニメは日本に限ったものではありませんが、フアンさんは、日本の漫画、アニメ、更にはビデオゲーム、文学、映画の中にだけ、忍耐、友情、物や自然への愛情、規律といった、道徳的なメッセージや教養的な要素があると感じていました。「ナルト」「ドラゴンボール」「鬼滅の刃」など、人気のアニメは暴力や戦いが多いのは確かですが、同時に「公平性、友人や家族の大切さ、チームワーク、日々の努

力による自己の成長と価値を広めています。」と言います。

対話し理解を深めることができる場を作ることに常に関心を寄せていたフアンさんは、日本文化の要素に心打たれ、愛する日本文化をその軸にしようと考えました。大学で教育学を学び、その後地元高等学校の教師として働いた経験は、フアンさんのプロジェクトの目的を研ぎ澄ませ、実現につなげる礎を築きました。そして、2011年3月3日、ひな祭りの日にMangaQ'baは産声を上げたのです。



CEDINMのギャラリー展示準備



FIVACの活動グループメンバーの一部

さまざまな活動を行っている彼に、そのモチベーションの源はどこにあるのか、そして活動の核となるものは何なのか聞いてみました。「間違いなくMangaQ'baを通して日本文化を促進できることが、同プロジェクト設立時からの自分の最大の情熱です。日本文化から学んだことが今の自分をより良い人間にしてくれたと理解しています。だからこそ、今キューバで育っている世代が、日本文化からインスピレーションを受け、よりよい人間に成長することに貢献したいと思っています」と答えました。また、「ネバーギブアップ」という言葉が、自身の人生のモットーであり、最善の日本的価値観を伝え続ける原動力になってる、と語りました。

若者への教育としての日本文化

MangaQ'balは老若男女問わずに文化的要素の振興を通じて、日本的価値観の理解促進が活動目的です。武道、囲碁、将棋、盆栽などの伝統的文化から、ゲーム、コスプレ、カラオケなどのポップカルチャーまで幅広い分野を扱っています。年々活動の規模は大きくなる一方で、フアンさんは、実施する様々なプロジェクトに一貫して、若者の育成に焦点を置くことを忘れていません。日本のポップカルチャーは娯楽的側面が強く、日本のアニメが世界的にも人気があるように、多くの人々に慣れ親しまれ、多くの若者を惹きつける「商品」でもあります。MangaQ'balはその集客力を利用し、これらの商品を消費するだけでなく、「多くの若者に深い影響を与えてきた文化を通じて価値観について理解を深め促進する場を創ってきた」と、フアンさんは自負しています。フアンさんによると、日本の文化が持つ多様性と、細部へのこだわりといった質が、キューバの子どもたちや若者たちの興味を刺激する鍵となっているそうです。これら若い年齢層にとって、自分の興味を模索し、自分と同じ関心を持つ仲間と社交できるスペースを得ることは、とても大事なことです。



居合道の形を練習するフアン・カルロスさん

MangaQ'baは、日本文化という枠組みの中で、このような語らいの場を提供しているのです。これまでの活動の成果として、「日本の作品から得られる価値観から、日常生活で立ちはだかる様々な問題にどう対処するかというインスピレーションを受けている若者たちが出てきていると実感している」と語ります。

このプロジェクトは、毎年8月6日から9日にかけて行っている「平和の8月（Agosto de Paz）」という催しにおいて、広島と長崎で起こった出来事を追悼するだけでなく、若者たちに開かれた議論をする場を提供しており、それは戦争の危険性や核軍縮の重要性等への問題意識を喚起する機会になっています。

日本文化の作品を利用して、このような複雑な問題に若者たちの意識を向ける例として、アニメ「火垂の墓」があげられます。ファンさんによると、自身が関わるすべての活動やプロジェクトは、「よりインクルーシブな空間を希求し、何らかの形で新しい世代の人たちを鼓舞し、力を合わせることを模索していますし、それこそが自由な発想と考え方をもち、個人の成長を可能にするのです。」ファンさんの教育者としての一面が見えます。

“

「多くの若者に深い影響を与えてきた文化を通じて価値観について理解を深め促進する場を創ってきました」



第4回世界の均衡国際コンファレンス、国際コンベンションホール
ハバナ、2019

色褪せない言葉

自分たちの文化アイデンティティを自覚できる若者を指導・育成することは、ファン・カルロスさんの活動の重要な目的の一つです。ファンさんは、人が成長する上で、文化がとても重要な役割を果たすことを熟知しています。「私たちは日本人になりたいわけではありません。キューバ人として自分らしさを捨てずに、自分たちが楽しめるものから吸収したい。日本文化から学びたいのです。」と述べました。

最後に、会いたい日本人はいますかと尋ねると、ファンさんは、「日本の歴史や文化に貢献した歴史上の人物で尊敬している人は5人います。徳川家康、三島由紀夫、三船敏郎、葛飾北斎、そして黒澤明です。」と答えました。故黒澤明監督については、「彼の映画の美学とドラマτουργーは世界中で参照され、映画史における金字塔となっていることは注目すべきです。古典がそうであるように、彼の言葉は色褪せることなく、すべての年代の人を繋ぐものとなっています。」と語りました。また、黒澤映画は、ファンさんを大いに魅了する江戸時代の様子を完璧に再現しているそうです。「黒澤映画で、これと言った映画を1つに絞って選ぶことはできませんが、よく観る映画が3本あります。「羅生門」、「椿三十郎」、そして「乱」です。」と教えてくれました。過去の偉人たちとの会合が実現することはないでしょうが、彼らが遺したものはファンさんに人生の活力を与え続けることでしょう。



ファン・カルロスさんがファイティング・スピリッツ賞を受賞した剣道大会
カマグエイ、2012



在キューバ日本国大使館
広報文化班